令和２年度 徳島大学大学院 創成科学研究科修士課程

臨床心理学専攻　Ⅰ期

入学試験問題

受験科目名：臨床心理学

【注意事項】

1　係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。

2　試験問題は，表紙（この紙）１枚，問題・解答用紙６枚の，合計７枚である。

3　解答開始後，各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。

4　問題は合計５問である。５問ともすべて解答すること。

5　解答は指定された解答欄に記入すること。

6　配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その１

第１問　次の英文を読み，下の**問１～２**に答えよ。

Mechanisms of behavior change (MOBC) within Motivational Interviewing (MI) are thought to operate via both relational and technical elements. These elements are hypothesized to increase client motivation and self-efficacy for change and subsequently decrease drinking. Only partial support for this causal chain exists, particularly when using within-session change talk as the primary intervening variable. This study explored whether commitment to moderate or abstain from drinking and confidence to moderate drinking in the next day measured via ecological momentary assessment (EMA) provided alternative support for the theory. Data were from a pilot randomized controlled trial testing active ingredients of MI. Problem drinkers (N = 89) seeking to moderate their drinking were randomly assigned to one of the three conditions: 1) MI; 2) Spirit only MI (SOMI), consisting of non-directive elements of MI, e.g., reflective listening; and 3) a non-therapy control. Participants completed daily EMA that measured confidence, both types of commitment, and drinks per day for a week prior to and during seven weeks of treatment. Hypotheses were not supported, and results were unexpected. Participants in SOMI were more likely to have higher daily confidence than those in MI; there were no condition differences for either type of commitment. All daily measures significantly predicted drinking; however, the MI group did not demonstrate a stronger relationship between the intervening variables and drinking, as hypothesized. Instead, participants in SOMI yielded the strongest relationship between daily commitment to abstain and drinking compared to the other two conditions. Multiple possible explanations for the unexpected findings are discussed.

出典：Kuerbis, A., Lynch, K. G., Shao, S., Morgenstern, J. (2019). "Examining motivational interviewing's effect on confidence and commitment using daily data." *Drug and Alcohol Dependence*, 204:107472.

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その２

問１　本研究において得られた結果を説明せよ。

問２　本研究から，Motivational Interviewing の MOBC について，どのようなことが示唆されるかについて述べよ。

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その３

第２問　心理学に関連する，次の 1～20 とそれぞれ関連が最も深い語を，下の語群 a～z のうちから一つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. 睡眠や覚醒の制御を行う他，視覚や聴覚などの感覚受容器から入力される情報を大脳皮質に振り分ける感覚中継基地の役割も果たす脳の部位。
2. 低い強度の光刺激を受容し，色のない低解像度の感覚を生じさせる網膜上にある受容器細胞。
3. 感情が強く喚起されるような重要な出来事を知った時の周囲の状況についての鮮明で比較的永続的な記憶(ただし記憶内容が正しいとは限らない)。
4. 自分の信念と反する証拠よりも，信念に合致した証拠の信頼度を高く見積もる傾向のこと。
5. 感覚尺度構成法の一つで，対象を観察した際に感じられた心理的大きさを数値で報告するもの。
6. Cattell, R. B. によって見出された知能構造に含まれる因子のうち，加齢の影響が大きく現れる知能。
7. 内発的動機づけによる行動に対し，外から報酬を与えることで内発的動機づけが低下すること。
8. ゲシュタルト心理学における中心概念で，物事をできるだけ簡潔に，まとまった形で知覚しようとする傾向のこと。
9. Bellack, L. が命名した対人距離における接近と回避との葛藤。
10. Cronbach, L. J. によって提唱された，学習者の特性によって指導法の効果が異なる現象。
11. 折半法によって得られた２つの得点の相関係数から信頼性係数を推定する場合に使用。
12. 企業における従業員の職業教育，能力開発の一つで，業務を通して上司や先輩から学ぶ方法。
13. 遊びを知的発達の側面からとらえ，機能的遊び，象徴的遊び，規則的遊びの段階を考案。
14. 一方の得点と他方の失点を合計するとゼロになる，ゲーム理論におけるゲーム分類の一つ。
15. 快-不快，緊張-弛緩，興奮-鎮静の３つの基本次元からなる感情３方向説を提唱。
16. 音韻知覚が他の感覚モダリティの情報からも影響をうけていることを示す現象。
17. より生起確率の高い反応事象はより生起確率の低い反応を強化すること。
18. データを基に，単なる要約ではない分析を行い，データの中に出てきた現象が生じるメカニズムについての理論を産出する質的研究法。
19. 個体と目標の位置関係，目標の誘発性の種類から，葛藤を接近-接近型，回避-回避型，接近-回避型の３つに分類。
20. Antonovsky, A. によって提唱された，疾病の要因ではなく健康になる要因に着目した健康保持増進へのアプローチ。

語群

a. 囚人のジレンマ・ゲーム	b. 確証バイアス	c. 桿体	d. GTA
e. 下垂体	f. 結晶性知能	g. アンダーマイニング効果	h. マガーク効果
i. サルートジェネシス	j. 適正処遇交互作用	k. ヤマアラシのジレンマ	l. フラッシュバック
m. Piaget, J.	n. 視床	o. 錐体	p. OJT
q. マグニチュード推定法	r. スピアマン-ブラウンの公式	s. フラッシュバルブ記憶	t. Lewin, K.
u. プレグナンツの法則	v. 流動性知能	w. 零和ゲーム	x. Stern, W.
y. Wundt, W.	z. プリマックの原理		

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その４

第３問　次の文章を読み，下の**問１～２**に答えよ。

ある症状に対して，既にＡという心理療法が存在しているが，その効果を上回ることが予想される新しい心理療法Ｂが考案された。Ｂの治療効果を実証するためには，統計的検討を用いた治療効果研究が必要である。

問１　Ａとの比較において，Ｂの治療効果を厳密に実証するための研究法の名称，また，その内容を説明せよ。

問２　問１で挙げた研究法について，統計的検討のデザインを説明せよ。また，どのような統計的結果が出ることが予想されるか，説明せよ。

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その５

第４問　心理学に関連する，次の文章を読み，それぞれの内容と関連が最も深い語を，下の語群 a～w の中から一つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. 児童の心身の発達を損なう衣食住環境や医療環境を長時間放棄しておくこと。保護者としての責任を放棄している状態。
2. ウェルトハイマーの用いた図版を使って開発した検査法。9 回の図版を模写させる方法を用いる。視覚・運動ゲシュタルト機能の習熟度を検査する。器質性脳機能の有無等が明らかになる。
3. カウフマン(Kaufman)博士夫妻によって，開発された心理教育アセスメントである。子どもの知的能力を認知処理過程と知識・技能の習得度の両面から評価し，得意な認知処理様式を見つけ，それを子どもの指導・教育に活かすことを目的としている。適用年齢は 2 歳 6 ヶ月から 18 歳 11 ヶ月となっている。
4. コフート(Kohut, H.)は，精神分析の 1 学派であり，独自の理論を発展させた。人は幸福感を体験するためには周囲の環境からの特定の反応が必要であると考えた。
5. 明らかな運動障害をきたす身体疾患がないにも関わらず存在する，極端に運動が苦手な状態を指す。乳幼児期には低緊張で独歩が遅いことが多い。移動運動の遅れだけでなく手先の不器用さや動作の中で力の加減が分からないため，作業の学習や対人関係で困難を生じることも多い。
6. ローエンフェルト(Lowenfeld, M.)の世界技法を学んだカルフ(Kalff, D.)が，分析心理学理論を適用し，新しい心理療法として確立した。
7. アメリカの心理学者マーシャ・リネハン(Linehan, M. M.)が開発した行動療法の一種である。最初は境界性パーソナリティ障害（BPD）の治療に特化し，アメリカ精神医学会は境界性パーソナリティ障害の精神療法として推奨してきた。能力や生きることへのモチベーションを高め；獲得したスキルを日常で普遍的に扱うことができるようになるとされる。
8. アイヴィ(Ivey, A. E.)によって開発されたカウンセラーの訓練プログラムである。カウンセリングや心理療法における技法を分類・構造化した階層表に基づいて，1 度に 1 つずつ技法を習得していく。
9. 子どもの愛着を調べる方法として，エインスワース(Ainsworth, M. D. S.)が開発した方法である。1 つの部屋に乳幼児と母親と見知らぬ人がいて，母親が部屋を出入りした時に乳幼児がどのような反応をするかで 4 タイプに分けた。
10. マーシャ(Marcia, J. E.)は，エリクソンの抽象的で多義的なアイデンティティの概念をより具体的かつ操作的基準で的確に捉えようとして，アイデンティティの危機を体験しているか等の基準に基づいて，4 つの地位を設定した。

語群

a. ベンダー・ゲシュタルトテスト　b. K-ABC　c. 限局性学習障害　d. ロゴセラピー　e. ネグレクト　f. 遊戯療法 g. 心理的虐待　h. 弁証法的行動療法　i. 自我心理学　j. 箱庭療法　k. 発達性協調運動障害　l. HTP 法　m. 教育分析　n. 自己心理学　o. ストレンジ・シチュエーション法　p. アイデンティティ・ステイタス　q. マイクロカウンセリング　r. KABC-Ⅱ　s. モラトリアム　t. ストレス・デブリーフィング　u. HDS-R　v. サリーとアン課題　w. DSM-5

解 答 欄

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
記号										

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その６

第５問　クライエントの自殺の危険性の評価に関して，下の問１～問２に答えよ。

問１　クライエントの自殺がどの程度切迫しているかを評価するために確認すべき事項を説明せよ。

問２　クライエントの自殺の危険性を評価する際に，どのようなことに配慮しながらクライエントに対応すべきかについて説明せよ（支援者の態度など）。

小　計	

合　計	